

2018年度第一回JICAインターンシップ・プログラムポスター一覧

登録番号	担当部署	募集人数	テーマ
1801-在01	東ティモール事務所	1	東ティモール国立大学における教育・研究能力強化活動の補助
1801-在02	モンゴル事務所	1	医療者の待遇改善を目的とした研修パッケージの作成
1801-在03	タイ事務所	1	①保健・社会保障（公衆衛生、高齢者支援等）、②社会工学（土木、都市計画等）、③環境政策・科学（気候変動、エネルギー問題等）の3分野より、インターンの提案により決定。
1801-在04	カメルーン事務所	1	コメ振興プロジェクトにおける研修実施および一般農家への活動モニタリング
1801-在05	タンザニア事務所	1	タンザニアにおける本邦民間連携事業（農産加工ビジネス）に係るインターンシップ
1801-在06	モザンビーク事務所	1	初等教員養成校における算数教育関連教材の活用状況調査
1801-在07	ザンビア事務所	1	稲作普及における社会経済インパクト測定のための農村社会調査
1801-在08	エチオピア事務所	1	応募者提案型（農業分野を除く）
1801-在09	タジキスタン事務所	1	地域情報収集に関する業務、PR&メディア部門、IT事務関連、小規模調達管理の中から、インターンと面談の上で決定。
1801-在10	パレスチナ事務所	1	JICAパレスチナ事務所の業務補佐を通じたODA事業の理解
1801-在11	エジプト事務所	1	エジプトを拠点とした地域間協力についての基礎情報収集
1801-在12	エルサルバドル事務所	1	「中米の日本」とも呼ばれるエルサルバドルにおけるこれまでのJICA協力アセットを調査・分析し、日本だからこそ為し得た対エルサルバドル協力レジェンドの発掘、および今後の協力に向けたイノベティブなアイデアを検討する。
1801-在13	ペルー事務所	1	JICAペルー事務所での広報手法の改善、事業効果に関する広報資料の作成（日系社会支援・連携に係る広報も含む）
1801-在14	パラグアイ事務所	1	パラグアイ事務所のボランティア事業等広報強化に資する業務及びボランティア班業務補助
1801-在15	ウガンダ事務所	1	ボランティア事業支援（ボランティア派遣のインパクト評価実施に向けた情報の収集と分析）及び広報活動支援
1801-在16	ニカラグア事務所	1	エンドライン調査の整理、国際フォーラム運営支援

2018年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

受入担当部署/受入事務所		登録番号	1801-在01
■部署名/事務所名：	東ティモール事務所	■募集人数 (人)	1
■課名/プロジェクト名：	東ティモール国立大学における教育・研究能力強化活動の補助		
■テーマ			
東ティモール国立大学における教育・研究能力強化活動の補助			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
<p>東ティモール唯一の公的高等教育機関である東ティモール国立大学は、国づくりを担うべき技術系人材の育成の観点からインドネシア時代の旧東ティモール・ポリテクニクを母体として工学部を設置しましたが、教官が指導に十分な知識を有していないことや、独立に伴う1999年8月の混乱によって教育機関施設を含む物的インフラの7割以上が破棄されて使用不可能となったことなどから、教育の質が著しく低いことが問題となっていました。日本はこれまで、機材調達や技術協力を通じて同大学工学部の能力強化を行ってきており、現在は、同工学部の社会ニーズに対応した教育・研究活動を強化することを目的として、工学部教職員を対象に、マネジメント・教育・研究の改善支援を行っています。</p> <p>しかしながら、東ティモールでは初等教育段階から教育の質に問題があり、東ティモール大学工学部に入学した学生においても、基礎学力（特に理数科）が低いことから、工学部では1年目に中学・高校レベルの数学や物理の復習から履修させている状況です。本プログラムでは日本の支援を補完するものとして、工学部の学生が授業についていけるよう、初等数学や物理の補講、個別指導を行うものです。また、プロジェクト活動支援業務も行います。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>プロジェクト現場（工学部）に入らせていただき、下記の活動を想定しています。 （インターンシップ開始時期に工学部で行われている活動に応じて適宜調整）</p> <p>1) 工学部学生の理数科基礎力向上を目的に、初等数学・物理（中・高レベル）の補講や自主的な勉強会を実施する。（指導内容、指導スケジュールはプロジェクトオフィスの支援を受けつつ、インターン、現地教官、学生で調整しながら実施する）</p> <p>2) プロジェクト活動後方支援（各種資料作成・整理、各種セミナー開催支援、プロジェクト広報など）</p> <p>3) 上記活動を円滑に行うため、途上国の教育協力に興味があり、インターン自らプロジェクトオフィス、現地教官・学生と積極的にコミュニケーションをとり、現地事情に合わせて創意工夫しながら活動することが求められる。</p>			
■参考情報			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
■受入時期・期間			
2018 年 8月 から 10月 までの 2ヶ月間程度			
理由：			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）		■希望する分野	
大学院生・社会人		国際教育協力分野または理工学分野	
■応募資格以外に受入れに必要な要件			
国際教育協力や理数科教育に興味があること。英語での初等数学・物理指導が可能であること。物理が難しい場合は、数学のみでも可。			
■提供可能な執務環境等（可能な項目にチェックを入れてください。）			
<input checked="" type="checkbox"/> 執務スペース	<input type="checkbox"/> 電話等の利用	<input type="checkbox"/> PC貸出し	<input checked="" type="checkbox"/> PC自身で準備
<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供	<input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出	<input type="checkbox"/> 携帯電話通話料個人負担	
<input type="checkbox"/> その他（提供可能な事項）：			
■備考・留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・滞在費（一日あたりの食費及び少額交通費）目安：3,000円/日 ・宿泊費目安：5,000円/泊（月極の場合はもう少し安価になります） 			

2018年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

受入担当部署/受入事務所		登録番号	1801-在02
■部署名/事務所名:	モンゴル事務所	■募集人数 (人)	1
■課名/プロジェクト名:	一次及び二次レベル医療施設従事者のための卒後研修強化プロジェクト		
■テーマ			
医療者の待遇改善を目的とした研修パッケージの作成			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
<p>国土が広く、医師の地域偏在が課題であったモンゴルでは、かねてから医学部を卒業したばかりの医師を、研修を受けさせることなく地域に強制配置し、地域の医師不足を解消してきた。しかしその結果、地域の医療の質が低下し、住民の医療不信の原因ともなった。そこで当プロジェクトは、2015年より地域の医療サービスの質の向上を企図し、地域の医療従事者のための卒後研修プログラムの整備に取り組んでいる。プロジェクトの主な活動は、①医療に関する政策策定機関である保健省と政策実施機関である保健開発センターの研修管理能力の強化、②医師の研修カリキュラムの作成や指導医の育成、③地方での研修活動の支援の3つである。これまで①卒後臨床研修に関する省令の整備（研修病院の指定基準や研修病院の評価基準の作成）、②総合診療医の標準的カリキュラム作成や全国規模での指導医育成、③モデル県（オルホン県）での短期研修の実施など成果を上げてきた。今後は、地域において実際に総合診療医研修のプログラムを開始し、運営に対する技術支援をすること、またすべての医師を対象にした短期研修パッケージの作成などに取り組む予定である。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>すべての医師を対象にした短期研修パッケージの研修テーマとして、「待遇改善」が挙げられている。ただ、このテーマは医師のみに必要とされているテーマではなく、全医療職に求められている研修テーマである。活動にあたっては、①現状の評価（公衆衛生的手法を用いた調査、現場の視察を含む）、②効果的研修内容の考案（成人学習理論に基づく研修の作成）、③研修パッケージの作成（プロのカメラマンを活用したビデオ映像の撮影も可能）、④研修の実施（試験的に研修を実施する。地方での研修実施も想定）、⑤研修内容の評価・改善（行動変容への動機付けが効果的に行われたかを評価し、研修内容の改善に向けた提案を行う）の5段階に分けて取り組むことを想定している。これらの活動は、日本人専門家がモンゴル人カウンターパートと主に取り組むが、インターンは状況に応じて業務量を調整しながら対応いただく予定である。なお希望があれば、これらの活動内容を学術的活動（学会発表や論文作成）にまとめることも支援可能である。これらの活動を通し、日本人の「おもてなし」精神をモンゴルの医療者と共有しつつ、インターンも気づきを得ることを目指す。</p>			
■参考情報			
<p>* Project概要 (https://www.jica.go.jp/project/mongolia/012/outline/index.html) * Project facebook (https://www.facebook.com/pg/JICApostgraduatetrainingProject/posts/)</p>			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
モデル県（オルホン県）での研修実施			
■受入時期・期間			
2018年 11月 から 12月 までの 2 ヶ月間程度 （11-2月の期間であれば調整は可能）			
理由： 活動内容から2か月程度は必要。冬場の方がまとまった活動期間を確保しやすい。			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）		■希望する分野	
全て可		医療職あるいは接客業（アルバイト経験でも可）の経験が望ましい	
■応募資格以外に受入れに必要な要件			
過去に何らかの接遇研修の受講経験があることが望ましい（指導経験は問わない）			
■提供可能な執務環境等（可能な項目にチェックを入れてください。）			
<input checked="" type="checkbox"/> 執務スペース	<input checked="" type="checkbox"/> 電話等の利用	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出し	<input type="checkbox"/> PC自身で準備
<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供	<input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出	<input type="checkbox"/> 携帯電話通話料個人負担	
<input checked="" type="checkbox"/> その他(提供可能な事項):			
■備考・留意点			
<p>現地スタッフが日本語に堪能であり、事務所内は日本語での会話になる。平均気温が氷点下であり、寒い時期である。 ・滞在費（一日あたりの食費及び少額交通費）目安：1,000円/日 ・宿泊費目安：4,000円/泊</p>			

2018年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

受入担当部署/受入事務所		登録番号	1801-在03
■部署名/事務所名:	タイ事務所	■募集人数 (人)	1名
■課名/プロジェクト名:			
■テーマ			
①保健・社会保障（公衆衛生、高齢者支援等）、②社会工学（土木、都市計画等）、③環境政策・科学（気候変動、エネルギー問題等）の3分野より、インターンの提案により決定。			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
<p>タイ事務所では、日本とタイの政治・経済・社会面での緊密な関係を踏まえた戦略的パートナーシップに基づき、双方の利益増進につながる協力及びASEAN・メコン地域の均衡のとれた発展に貢献する協力を実施しており、①持続的な経済の発展と成熟する社会への対応（産業人材育成、競争力強化の基盤整備、環境・気候変動、高齢化支援、社会的弱者支援等）、②ASEAN域内共通課題への対応、③ASEAN域外諸国への第三国支援を重点分野としています。</p> <p>タイ事務所でのインターンシップの目的は以下のとおりです。</p> <p>（1）自身の関心テーマの調査・研究を行い、JICAタイ事務所に共有・提言する。①保健・社会保障（公衆衛生、高齢者支援等）、②社会工学（土木、都市計画等）、③環境政策・科学（気候変動、エネルギー問題、洪水対策、国際河川管理等）の3分野より、ご自身の関心テーマ及び具体的なインターンシップ活動内容の希望を応募申請書に記載ください。</p> <p>（2）JICAタイ事務所の業務、及びインターンの関心事項に関連する案件（プロジェクトを含む）のサポートを通じ、日本及びタイでの国際協力意義を理解する。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>主に、以下の活動を行っていただく予定です。</p> <p>（1）自身の調査・研究</p> <p>（2）自身の関心テーマに関連する案件のサポート業務（タイ事務所における事務処理、関係者との連絡調整等）</p> <p>（3）タイ事務所における業務（広報等）</p>			
■参考情報			
<p>1. JICAホームページ（各国における取り組み、タイ） http://www.jica.go.jp/thailand/index.html</p> <p>2. 今回募集する3分野については、以下のような案件を実施しています。</p> <p>①保健・社会保障（公衆衛生、高齢者支援等）：タイにおけるユニバーサルヘルスカバレッジの改善と周辺国のユニバーサルカバレッジの達成への支援、結核対策（周辺国への人材育成、研究）、高齢者のための包括ケアサービス開発、高齢者雇用等</p> <p>②社会工学（土木、都市計画等）：タイにおける持続可能な都市の開発に寄与する計画策定、バンコクにおける渋滞解消支援等</p> <p>③環境政策・科学（気候変動、エネルギー問題等）：バンコク都における気候変動マスタープランの実施能力向上への支援、タイおよび東南アジア地域の低炭素・レジリエントな社会構築を推進するための人材育成への支援等</p>			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
希望テーマに応じて調整			
■受入時期・期間			
2018年7月下旬から 2019年3月下旬 までの 1~2ヶ月間程度			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可 理由:			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）		■希望する分野	
大学生・大学院生・社会人全て可		①保健・社会保障（公衆衛生、高齢者支援等）、②社会工学（土木、都市計画等）、③環境政策・科学（気候変動、エネルギー問題等）	
■応募資格以外に受入れに必要な要件			
<p>英語必須（TOEIC730点以上、TOEFL550点以上（CBT2134点、iBT79点）、IELTS6.0以上、英検準1級以上、国連英検B級以上レベルの英語力を有する方が望ましい。）</p> <p>タイ語が堪能な方が望ましい。（国籍は問わない）</p>			
■提供可能な執務環境等（可能な項目にチェックを入れてください。）			
<input checked="" type="checkbox"/> 執務スペース <input checked="" type="checkbox"/> 電話等の利用 <input type="checkbox"/> PC貸出し <input checked="" type="checkbox"/> PC自身で準備 <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話通話料個人負担 <input checked="" type="checkbox"/> その他(提供可能な事項):			
■備考・留意点			
<p>・滞在費（一日あたりの食費及び少額交通費）目安：2,400 円/日</p> <p>・宿泊費目安：5,000 円/泊</p>			

2018年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

受入担当部署/受入事務所		登録番号	1801-在04
■部署名/事務所名：	カメルーン事務所	■募集人数 (人)	1
■課名/プロジェクト名：	コメ振興プロジェクト		
■テーマ			
コメ振興プロジェクトにおける研修実施および一般農家への活動モニタリング			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
<p>カメルーンにおいて農業は基幹産業であり、就業人口の約6割を占めている。また、近年都市部を中心として米食やパン食が好まれるようになり、国家稲作振興戦略文書（以下NRDS）によれば、都市部のコメ消費量は37.3kg/人・年、農村部のコメ消費量は19.4kg/人・年と記されており、主食の範囲が広がりつつある。しかしながら、増加するコメ消費量に対し、国内のコメ生産量は2014年には19万トンに過ぎず、その多くを輸入に頼っており2010年から2014年の5年間の平均で56万トンのコメが輸入されていることから、食糧安全保障の観点および国際貿易収支の不均衡是正のためにも、コメの自給率を上げる事が急務となっている。</p> <p>カメルーンは、「アフリカ稲作振興のための共同体（CARD）」の支援対象国でもあり、2009年には策定されたNRDSでは、10年間で国内コメ生産量を10万トン（粳）、推計から約97万トン（籼）に増産することを数値目標としており、国内稲作振興によるコメの国内自給を目標に掲げている。</p> <p>こうした背景・政策に基づいて「熱帯雨林地域陸稲振興プロジェクト（PRODERiP, 2011年5月～2016年5月）」が実施されてきたが、その成果を引継ぎ、課題であるイネ種子生産体制の強化、また生産性の高い水稻地域の生産量増加を目指して「コメ振興プロジェクト」が要請され、2016年6月から5年間の協力を開始している。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>今回募集するインターンはプロジェクトが実施する陸稲・水稻普及業務において、研修実施やモニタリングを通じた効果的な技術移転及びプロジェクト運営を学ぶことを目的とし、下記の業務の中から実習時のプロジェクトの状況とインターンの希望・能力に応じて実習を割り当てることとする。（1）原原種種子生産圃場（注1）の維持管理、（2）農業省普及員及び中核農家への陸稲栽培・適正収穫後処理技術に関する研修の実施補佐、（3）（2）の研修後に実施される一般農家向け現場研修実施の補助、（4）「ネリカ栽培ガイド」改訂及び「灌漑水稻栽培技術マニュアル」の作成補助、（5）農業機械（籾摺り精米機、トラクター、耕耘機等）の修理・維持管理補助：プロジェクトにおけるインターン期間中における日常の基本的な活動は以下を予定①午前：プロジェクト圃場（研修実施場所）で原原種種子生産にかかる圃場管理補助および品種選定試験等補助など。②午後：これまでのモニタリング等調査結果のとりまとめ補助、その他モニタリング実施に合わせてモニタリングの補助やその他のプロジェクト活動の補助（農業機械の修理など）。</p> <p>（注1）原原種種子生産圃場・・・品種改良の結果、育成された作物の新品種においてその遺伝的特性が失われないように育成者の責任で種苗増殖を行う。その畑を原原種圃、生産された種苗を原原種という。</p>			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
1. 普及員、中核農家、農家組織代表を対象とした稲作研修への参加、2. プロジェクト対象4州（中央、東、南、北西州）のプロジェクト試験圃場での品種維持管理および試験活動への参加、3. 対象州の一般農家への現場研修同行・参加、および4. 農業機械維持管理にかかる補助業務			
■受入時期・期間			
2019年1月下旬 から3月下旬までの 2ヶ月間程度			
理由： 他業務との都合上によるもの			
■希望する学位（大学生または大学院生）		■希望する分野	
大学生・大学院生ともに可		農業分野専攻者のみ	
■応募資格以外に受入に必要な要件			
英語の場合は英検2級以上、TOEIC500点、TOEFL470点（iBT52点、CBT150点）、IELTS4.0以上。フランス語は仏検準2級以上、DELFA2 以上が望ましい。			
■提供可能な執務環境等（可能な項目にチェックを入れてください。）			
<input checked="" type="checkbox"/> 執務スペース	<input checked="" type="checkbox"/> 電話等の利用	<input type="checkbox"/> PC貸出し	<input checked="" type="checkbox"/> PC自身で準備
<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供	<input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出	<input type="checkbox"/> 携帯電話通話料個人負担	
<input type="checkbox"/> その他（提供可能な事項）：			
■備考・留意点			
<p>※入国時のトラブル回避のため事前に必ずビザを取得してください。</p> <p>※出張同行などを行う際の移動にはプロジェクト車両を利用予定です。</p> <p>・滞在費（一日あたりの食費及び少額交通費）目安：2,000円/日</p> <p>・宿泊費目安：2,700～5,300円/泊 ※家具付きアパートまたはホテル滞在を想定</p>			

2018年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

受入担当部署/受入事務所		登録番号	1801-在05
■部署名/事務所名:	タンザニア事務所	■募集人数 (人)	1
■課名/プロジェクト名:	【民間連携：中小企業海外展開支援】市場志向型農業を可能にするサツマイモの品種、栽培・貯蔵技術の普及・実証事業		
■テーマ			
タンザニアにおける本邦民間連携事業（農産加工ビジネス）に係るインターンシップ			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
<p>本案件は茨城県照沼勝一商店株式会社の提案に基づく民間連携事業で、Matoborwa社は日本において、サツマイモの栽培・調達・貯蔵・流通・加工（干しいも製造）を総合的に手掛ける現地法人です。もともとタンザニアは、全国的にサツマイモが栽培されています。そこに日本のサツマイモ品種を導入して、現地の農家に栽培方法を学んでもらい、農家と二人三脚で美味しい干し芋を作って日本に輸出しよう…というのが、事業のはじまりのきっかけです。日本のサツマイモ品種を導入するためには、タンザニア農業省と連携して試験を行う必要があります。JICAの支援を受けています。2014年に現地法人を設立して、今年で5期目になりました。今ではサツマイモを乾燥する設備を使ってドライマンゴーやドライパイナップルも作っており、国内外に販売しています。これからも日本の食品加工技術をつかって、タンザニアの農産物を加工し、美味しく栄養価のある食品を提供していくことが会社の目的です。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>インターンはMatoborwa社（在ドドマ）に常駐し、プロジェクト団員の指導の下、本事業に係る以下の活動を行っていただきます。Matoborwa Co. Ltd. は、調達部・製造部・営業部・経理部の4つで構成されています。調達部が原料（サツマイモやマンゴーなど）を農家から買い付け、それを製造部が工場加工し、できた商品を営業部が国内外に販売します。経理部は、これらの活動にともなうお金の動きを記録したり、予算を立てたりする仕事をしています。インターンで来られる方には、まずこの経理の仕事から始めてもらいます。経理の仕事は過去のインターンの先輩たちが作ったマニュアルが整備されており、2週間ほどで覚えられます。また、工場には日本人社長が駐在しており、わからないところは丁寧に教えます。慣れたら経理の仕事は1日2-3時間で終わるので、工場の作業にも参加してください。工場は女性スタッフが中心で、工場長も女性です。工場の作業を覚えたら、日本人社長と相談しながら、社員教育や環境整備にも挑戦して頂きます。</p>			
■参考情報			
https://web.facebook.com/matoborwa/?rdc=1&rdr			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
経理や工場の仕事の合間に原料の買い付けに同行してもらい、調達部がどのように農家と連携して良い原料を確保しているか、視察してもらうこともあります。			
■受入時期・期間			
2019年 2月 から 2019年 3月 までの 2ヶ月間程度			
○ 調整可 ● 調整不可 理由：他のインターンと重複しない日程で受入予定のため。			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）		■希望する分野	
大学生・大学院生・社会人全て可		特になし	
■応募資格以外に受入れに必要な要件			
Excelが使えること			
■提供可能な執務環境等（可能な項目にチェックを入れてください。）			
<input checked="" type="checkbox"/> 執務スペース	<input checked="" type="checkbox"/> 電話等の利用	<input type="checkbox"/> PC貸出し	<input type="checkbox"/> PC自身で準備
<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等	<input type="checkbox"/> 携帯電話貸出	<input type="checkbox"/> 携帯電話通話料個人負担	
<input type="checkbox"/> その他(提供可能な事項):			
■備考・留意点			
<p>PCや携帯電話は社内にいるときは、社内のものを使って頂いて結構です。ただしPCはOSが英語なので、自身で用意して頂いたほうが快適ではないかと思えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滞在費（一日あたりの食費及び少額交通費）目安：1000円/日 ・宿泊費目安：1200円/泊 			

2018年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

受入担当部署/受入事務所		登録番号	1801-在06
■部署名/事務所名:	モザンビーク事務所	■募集人数 (人)	1
■課名/プロジェクト名:	初等教員養成学校 (IFP) における新カリキュラム普及プロジェクト		
■テーマ			
初等教員養成校における算数教育関連教材の活用状況調査			
■テーマ (プロジェクトなど) の概要			
<p>モザンビークでは、2007年にこれまで異なる教育機関で行われてきた教員養成の統一が図られ、全州に初等教員養成校 (IFP) が開校した。また、教員不足や無資格教員への対策のため、2007年から基礎教育年数 10 年間に加え、教員養成年数が 1 年間の「10+1」カリキュラムの短期教員養成制度を暫定的に導入してきたが、短期間で詰込み式の教員養成課程は、教員の質に大きな課題を残すこととなった。このため、2012年に教員養成年数が3年間である新たな教員養成制度である「10+3」カリキュラムが試行的に導入され、2017年には7校のIFPが同カリキュラムを行っている。(2018年2月現在、入学資格者を後期中等教育修了者(基礎教育を含む12年間の教育)とした「12+3」カリキュラムが新たに検討されている。)本プロジェクトでは、新カリキュラムの方針に基づき、IFPの学生向けの算数・理科教材の開発と全国普及により、「開発された IFP 生徒向け教材が教員養成課程に導入される」(プロジェクト目標)ことを目指している。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>本プロジェクトで開発・普及される算数教育関連教材のIFP現場での活用を促進するため、以下の活動を予定している(現地状況により活動時期・内容が変更する可能性あり)。</p> <p>(9月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数教育関連教材のIFP現場における活用状況のモニタリング準備、モニタリング実施、結果の分析、報告書の作成 ・モニタリングの結果を踏まえた算数教育関連教材(全国版)の最終化支援 <p>(10月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数教育関連教材(全国版)の最終化支援(内容やレイアウト等の最終確認) ・算数教育関連教材の全国導入研修の準備、実施支援 ・IFPにおいて「算数教育関連教材を活用した授業」の模擬授業実演、IFP教官を講師としたモデル授業ビデオの作成 <p>(11月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトが開発した算数教育関連教材の効果検証に係る調査準備、調査同行、結果の集計・分析支援 ・「教材の授業での有効な活用方法」(授業視察の際のポイント)ガイドライン案の作成 ・上記活動に加え、現在JICA事務所にて保有する教育関連の情報更新作業等を行う 			
■参考情報			
プロジェクト活動地域: マプト州マプト、ナンプラ州ナンプラ、マニカ州シモイオ、テテ州テテ (滞在中出張可能性あり)			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
教育人間開発省・IFP関連の研修・行事、IFP・小学校の授業観察			
■受入時期・期間			
2018年 9月 から 11月 までの 2ヶ月間程度			
理由: プロジェクト活動が上記スケジュールにて予定されているため			
■希望する人材 (大学生/大学院生/社会人)		■希望する分野	
大学院生のみ		算数教育	
■応募資格以外に受入れに必要な要件			
開発途上国での算数教育の経験・教職経験があること、ポルトガル語(ないしスペイン語)ができることが望ましい			
■提供可能な執務環境等 (可能な項目にチェックを入れてください。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 執務スペース	<input type="checkbox"/> 電話等の利用	<input type="checkbox"/> PC貸出し	<input type="checkbox"/> PC自身で準備
<input type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供	<input type="checkbox"/> 携帯電話貸出	<input type="checkbox"/> 携帯電話通話料個人負担	
<input checked="" type="checkbox"/> その他(提供可能な事項): インターネット環境 (WiFi)			
■備考・留意点			
<p>当地では午後10時以降の徒歩移動禁止(認可タクシーを利用すること)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滞在費(一日あたりの食費及び少額交通費)目安: 3000円/日 ・宿泊費目安: 約7500円/泊 			

2018年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

受入担当部署/受入事務所		登録番号	1801-在07
■部署名/事務所名:	ザンビア事務所	■募集人数 (人)	1
■課名/プロジェクト名:	コメ普及支援プロジェクト		
■テーマ			
稲作普及における社会経済インパクト測定のための農村社会調査			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
<p>ザンビアの農業セクターは、豊富な農業用地や水資源など農業生産のポテンシャルが十分にあるにも関わらず、主食のメイズ（トウモロコシ）偏重の補助政策により、技術普及や灌漑整備などが十分に進んでいないため、GDP貢献度は1割に満たない。このため、農業人口の96%を占める小規模農家の約8割は、貧困ライン以下の収入で生活している。ザンビア政府は、メイズ以外の作物、特に換金できる作物の生産を推進し、農家の現金収入向上を図ろうとしている。このような中、近年、経済発展に伴い需要が増加しているコメに注目が集まっている。ザンビアにおけるコメの生産は需要に追いつかず、約半分を輸入に頼っている状況であり、コメ生産に適したダンボと呼ばれる低湿地は未利用のまま多く存在している。</p> <p>「コメ普及支援プロジェクト」は、コメを小規模農家の生産体系の一部に組み込むことで、作物生産の多様化を促し、農家の収入向上に役立てることを目的としている。プロジェクトは主に、ザンビア農業省のコメ普及体制を確立することを目指し、2015年末から2019年9月までを活動期間として実施中であり、日本人長期専門家4名が活動中である。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>本インターンは、「コメ普及支援プロジェクト」のためザンビアに来訪するモニタリング・社会調査の日本人専門家が、現地の研究者や普及員とともに以下を行う活動（予定）に参加する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普及員と篤農家によるネリカのデモ栽培実施状況を、現地（村）踏査と質問表によるインタビューで確認する。 ・農業省による普及員から提出されるデモ実施レポートの集計・分析を支援する。 ・試験的に導入したスマートフォンを利用したモニタリングの実施状況を確認する。 ・ベースライン調査と、昨年度、本年度に実施した調査結果を比較する。 <p>本インターンシップの活動は、フィールドでの活動が多く、参加者はアフリカの農村社会に直接触れる機会を持つことができ、今後の途上国での活動に役立つ経験を積むことができるであろう。</p>			
■参考情報			
http://gwweb.jica.go.jp/km/ProjectView.nsf/1572a55e59ffe7aa49256f9e0022ffca/ef300611dd7016f449257eba0079dd1f?OpenDocument			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
■受入時期・期間			
2018 年 8月中旬 から 9月下旬 までの 1.5ヶ月間程度			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可 理由:			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）		■希望する分野	
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに必要な要件			
■提供可能な執務環境等（可能な項目にチェックを入れてください。）			
<input checked="" type="checkbox"/> 執務スペース	<input checked="" type="checkbox"/> 電話等の利用	<input type="checkbox"/> PC貸出し	<input checked="" type="checkbox"/> PC自身で準備
<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等	<input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出	<input type="checkbox"/> 携帯電話通話料個人負担	
<input type="checkbox"/> その他(提供可能な事項):			
■備考・留意点			
僻地での活動があるため、体調管理には各自留意ください。			

2018年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

受入担当部署/受入事務所		登録番号	1801-在08
■部署名/事務所名:	エチオピア事務所	■募集人数 (人)	1
■課名/プロジェクト名:			
■テーマ			
応募者提案型（農業分野を除く）			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
<p>エチオピアの開発課題に関連し、かつエチオピアに対するJICAへの協力への提言が得られるような内容であれば、応募者の提案に沿って受け入れます。ただし以下の条件を満たすこととします。</p> <p>1. 2018年8月までの非常事態宣言により、地方部での活動が限定される可能性があるため、首都での調査で完結できる内容であること</p> <p>2. 農業分野は対象外とさせていただきます（JICAの協力は地方部で展開しており、かつ首都のみで農業の実態を調査するのは難しいため）。</p> <p>（参考：現在のJICAのエチオピアへの協力）</p> <p>1. 農業・農村開発：食糧安全保障（食糧安全保障、農業市場経済化、自然資源管理）</p> <p>2. 産業振興（政策対話、工業団地開発、輸出振興、カイゼン、女性企業家支援）</p> <p>3. インフラ（運輸交通、電力、水・衛生）</p> <p>4. 教育（基礎教育）</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
応募者の提案にもとづく調査（インタビュー、視察、文献調査）			
■参考情報			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
■受入時期・期間			
2018年7月 から 2019年1月 までの 1-2ヶ月間程度			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可 理由：			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）		■希望する分野	
大学生・大学院生・社会人全て可		なし	
■応募資格以外に受入れに必要な要件			
英語			
■提供可能な執務環境等（可能な項目にチェックを入れてください。）			
<input checked="" type="checkbox"/> 執務スペース <input type="checkbox"/> 電話等の利用 <input checked="" type="checkbox"/> PC貸出し <input type="checkbox"/> PC自身で準備 <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話通話料個人負担 <input type="checkbox"/> その他(提供可能な事項): _____			
■備考・留意点			
<p>・原則JICAエチオピア事務所を執務拠点とし、首都での活動とします。非常事態宣言が2018年8月まで出されておりますが首都での活動に支障はありません。ただし上述の通り地方部への渡航制限がかかる可能性があります。</p> <p>・プリンターは空港税関で没収の可能性があるため持ち込み不可とします。</p> <p>・宿泊費目安：7,000円/泊</p>			

2018年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

受入担当部署/受入事務所		登録番号	1801-在09
■部署名/事務所名：	タジキスタン事務所	■募集人数 (人)	1
■課名/プロジェクト名：			
■テーマ			
地域情報収集に関する業務、PR&メディア部門、IT事務関連、小規模調達管理の中から、インターンと面談の上で決定。			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
<p>業務のテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> * 現地職員を補佐してウェブページ及びSNS (FB)の充実。 * タジキスタンおよび周辺地域の情報の収集と分析。 * 事務所業務の要となる外部委託IT業者との連携の補助。 * 法規範等を順守しつつ小規模調達業務を補助的に行い、調達業務の基礎を学ぶ。 			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>国連等を含む関係機関や現地報道を通じて、当国・中央アジア及び周辺国の情報を収集・分析し、JICA事業にフィードバックする。これらの業務を通じ、外交・政治・経済面での地政学的ダイナミズムと国際協力事業の関係性の理解が深まることが期待される。</p> <p>当事務所のウェブサイト及びSNS (Facebook)の日本語・英語版の充実に向けた課題分析・提案を含む改善案を策定・実施し、Facebook等のSNSと連動によるウェブサイトの閲覧者の増加を目指す。実施中案件の関係者（タジク政府、日本人）への取材等を通じて、途上国の現場で国際協力事業に対する理解を深めると共に、それを効果的に対外発信する方法論を学ぶことが期待される。</p> <p>その他、担当所員の指導の下で、事務所業務（IT事務・小規模調達など）の補助業務を行う。 活動の当初に活動計画書を作成し、終了時にインターンシップ報告書を提出する。</p>			
■参考情報			
https://www.jica.go.jp/tajikistan/			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
特に予定はしていないが、適宜、行事・イベント等がある場合には補助的に参加することを予定。			
■受入時期・期間			
2018年7月下旬～9月下旬、又は2019年2月中旬～3月中旬までの1～1.5ヶ月間程度			
理由：			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）		■希望する分野	
大学生・大学院生ともに可		中央アジア地域の開発への関心、メディア（SNS）	
■応募資格以外に受入に必要な要件			
英語必須。ロシア語あるいはタジク語（ダリー語、ペルシア語）ができれば望ましい。			
■提供可能な執務環境等（可能な項目にチェックを入れてください。）			
<input checked="" type="checkbox"/> 執務スペース <input type="checkbox"/> 電話等の利用 <input checked="" type="checkbox"/> PC貸出し <input type="checkbox"/> PC自身で準備 <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話通話料個人負担 <input type="checkbox"/> その他(提供可能な事項)：			
■備考・留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・滞在費（一日あたりの食費及び少額交通費）目安：700円/日 ・宿泊費目安：2,500円/泊（アパートの場合） 			

2018年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

受入担当部署/受入事務所		登録番号	1801-在10
■部署名/事務所名：	パレスチナ事務所	■募集人数 (人)	1
■課名/プロジェクト名：			
■テーマ			
JICAパレスチナ事務所の業務補佐を通じたODA事業の理解			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
<p>JICAは、将来のパレスチナの国家建設・イスラエルとの平和共存の実現に向けて、パレスチナの経済・社会が自立するよう、(1) 民生の安定化と向上（保健、教育、社会的弱者）、(2) 行財基盤の強化と行政の質の向上（財政力・計画管理能力、行政サービス向上）、(3) 持続的な経済成長の促進（産業開発、農業、観光）の分野を中心に、各種技術協力プロジェクトを通じて、パレスチナの経済・社会開発に取り組んでいます。</p> <p>特に、日本政府の推進する「平和と繁栄の回廊」構想の具現化に向けて、ジェリコ農産加工団地の設立に注力しています。</p> <p>この中で今年度、パレスチナ事務所で開催するインターンの目的は以下の2つです。</p> <p>(1) パレスチナ事務所での業務を通じて、その役割、日本のODA事業を理解する。</p> <p>(2) JICAが実施するプロジェクトチームをサポートすることを通じ、日本の国際協力の在り方を理解する。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>1) インターン実施場所、内容、割合：</p> <p>① JICAパレスチナ事務所（ラマツラ）： JICAの在外拠点事務所における各種業務の補助、具体的には会議準備補佐、資料作成の補佐、広報業務補佐などを行う。（全期間の7割程度）</p> <p>② 技術協力プロジェクトサイト（ラマツラ、ジェリコ）： 技術協力プロジェクト（1～2案件）で、プロジェクト専門家が実施する調査、ワークショップ、会議の業務補佐を行う。（全期間の3割程度）</p> <p>2) インターン生の関心テーマの取り扱い：</p> <p>本インターンは日本の国際協力の理解に主眼をあて、JICA事務所やプロジェクトの業務補佐を通じて日本の役割を理解いただくことが中心となります。このため、応募者が有する関心分野・テーマに対して調査するまとまった時間を設けることができませんが、期間中、空き時間を活用して、インターン生自身で文献調査、聞き取り調査することも可能です。希望者は、応募の際には、その旨、お知らせ願います。</p>			
■参考情報			
パレスチナにおけるJICAプロジェクト： https://www.jica.go.jp/palestine/office/activities/index.html			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
参加（同行）可能な行事・視察の有無については、選考後、受入時期を考慮に決定します。			
■受入時期・期間			
2018年8月から2019年2月までの1～2ヶ月（最大60日）間程度（ただし、8月下旬のイスラム教の祝日時期は除く）			
理由：			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）		■希望する分野	
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに必要な要件			
<ul style="list-style-type: none"> ・ TOEIC730点以上、TOEFL550点以上（CBT2134点、iBT79点）、IELTS6.0以上、英検準1級以上、国連英検B級以上レベルの英語力を有する方。 ・ イスラエル占領下におけるパレスチナ自治区の状況は特殊かつ複雑です。中東問題における基礎知識を持ち、かつ関心が高い方が望まれます。 			
■提供可能な執務環境等（可能な項目にチェックを入れてください。）			
<input checked="" type="checkbox"/> 執務スペース	<input checked="" type="checkbox"/> 電話等の利用	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出し	<input checked="" type="checkbox"/> PC自身で準備
<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供	<input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話通話料個人負担	
<input type="checkbox"/> その他(提供可能な事項)：			
■備考・留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・ インターン生は外務省危険情報における「十分注意して下さい」となる地区のみ活動が限定されます。 ・ JICA事務所では常に安全措置を講じておりますが、急激な治安悪化に伴い、インターンに支障があると判断される場合、直前でも渡航を取りやめていただくこともあります。 ・ パレスチナ事務所作成の安全の手引きを遵守して下さい。 ・ 業務に係る移動には、JICA事務所もしくはプロジェクトの車両、またはJICA事務所指定のタクシーを利用します。 ・ 携帯電話は事務所から貸し出しますが、私用通話料は自己負担いただきます。 ・ 滞在費（一日あたりの食費及び少額交通費）目安：2,000円/日 ・ 宿泊費目安：6,600円/泊（US\$60/泊） 			

2018年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

受入担当部署/受入事務所		登録番号	1801-在11
■部署名/事務所名:	エジプト事務所	■募集人数 (人)	1
■課名/プロジェクト名:			
■テーマ			
エジプトを拠点とした地域間協力についての基礎情報収集			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
<p>JICAエジプト事務所では過去30年以上にわたりアフリカ・中東地域の人材育成を目的に、エジプト政府および研修実施機関とともに第三国研修（Third Country Training Program, TCTP）を実施してきた。これまでの受入実績は5,000人以上に達する。TCTPでは主として農業、保健、水資源等の対象地域の課題解決に貢献できる分野が選定されてきた。近年、エジプト及び周辺地域の情勢変化に伴い、難民・移民、エネルギー等の地域の開発課題が多様化、複雑化している。そのためエジプトで活動するドナーの多くがエジプト国内のみにとどまらない広域的な取り組みを行っているが、その全体像は不明である。そこで、本インターンにはその全体像の把握のための基礎情報を収集することが期待されている。同時に、JICA事務所によるTCTPの実施運営、関連資料作成等への側面支援を行い、国際協力の実務経験を積むことも期待されている。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<ul style="list-style-type: none"> ・ JICAエジプト事務所における第三国研修の実績・成果についての情報収集・分析 ・ エジプト側研修実施とJICAエジプト事務所と協議の事前準備への側面支援 ・ 各ドナーの地域間協力の動向についての調査、ヒアリング、結果のまとめと分析 ・ TCTPの実施運営、関連資料作成等への側面支援 ・ インターンシップ期間中に収集した情報とその分析をまとめた報告書の作成 			
■参考情報			
<p>JICA HPの南南協力紹介: https://www.jica.go.jp/activities/issues/ssc/approach.html JICAエジプト事務所パンフレット: https://www.jica.go.jp/egypt/office/others/pamphlet.html JICAエジプト事務所 HP（英語版）: https://www.jica.go.jp/egypt/english/activities/activity08.html UNOSSO (United Nations Office for South-South Cooperation) HP: http://www.southsouthworld.org/ 等</p>			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
アフリカ向け第三国研修「水産養殖」、その他第三国研修			
■受入時期・期間			
2018年7月中旬から 8月中旬までの 1ヶ月間程度			
理由:			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）		■希望する分野	
大学院生		国際協力、中東地域研究、人材育成	
■応募資格以外に受入に必要な要件			
中東地域に関する基礎的な知見、北アフリカ・中東地域での滞在経験があることが望ましい。			
■提供可能な執務環境等（可能な項目にチェックを入れてください。）			
<input checked="" type="checkbox"/> 執務スペース	<input checked="" type="checkbox"/> 電話等の利用	<input type="checkbox"/> PC貸出し	<input checked="" type="checkbox"/> PC自身で準備
<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供	<input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話通話料個人負担	
<input checked="" type="checkbox"/> その他(提供可能な事項):			
■備考・留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 滞在費（一日あたりの食費及び少額交通費）目安：1500円/日 ・ 宿泊費目安：3000円/泊 			

2018年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

受入担当部署/受入事務所		登録番号	1801—在12
■部署名/事務所名：	エルサルバドル事務所	■募集人数 (人)	1名
■課名/プロジェクト名：	日本とエルサルバドルの絆から生まれたJICAレジェンドの発掘		
■テーマ			
「中米の日本」とも呼ばれるエルサルバドルにおけるこれまでのJICA協力アセットを調査・分析し、日本だからこそ為し得た対エルサルバドル協力レジェンドの発掘、および今後の協力に向けたイノベティブなアイデアを検討する。			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
JICAによる技術協力、資金協力、ボランティア事業等における過去の協力アセット（例、OVOP、観光開発、シャーガス病対策、防災、農村開発、中小企業振興、藍染め等）の現況調査を行うことにより、現在実施中または今後実施予定の案件に対する教訓やグッドプラクティスを抽出し、中長期的なJICA協力案件形成のための基礎情報とすることを目的とする。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
JICA事務所が有する既存情報、インターネット等で公開されている情報も活用し、担当職員の協力を得ながら、具体的な調査を企画・実施し、帰国前に報告会を行う。			
①エルサルバドル訪問前に、インターネット等を活用して、エルサルバドルの政治・経済ならびにJICA案件（実施済、実施中）にかかる基本情報を収集・理解する。 ②質問票によるアンケート調査やインタビュー調査など調査手法の検討も含めた、調査の計画・実施・結果分析を行う。 ③政府機関、プロジェクトサイト、帰国研修員訪問などを通じてJICA協力アセットの現況を調査する。 ④調査では、エルサルバドルの政治・経済状況も踏まえたインパクト発現あるいは阻害要因も分析し、現在実施中の案件及び今後実施予定の案件に対する教訓、グッドプラクティスの抽出を試みる。 ⑤教訓、グッドプラクティスをもとに、我が国の中長期的な対エルサルバドル協力に対する提案を検討する。 ⑥調査結果分析レポートを作成し、JICA事務所員、実施中案件のJICA専門家等を対象とした報告会を行う。			
■参考情報			
JICAナレッジサイト http://gwwweb.jica.go.jp/km/km_frame.nsf			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
終了済及び現在実施中の協力案件の視察・訪問、ボランティア事業の視察等			
■受入時期・期間			
2018年7月から2019年3月までの2ヶ月間程度 理由：			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）		■希望する分野	
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入に必要な要件			
スペイン語で会話、読み書きができること			
■提供可能な執務環境等（可能な項目にチェックを入れてください。）			
<input checked="" type="checkbox"/> 執務スペース	<input checked="" type="checkbox"/> 電話等の利用	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出し	<input checked="" type="checkbox"/> PC自身で準備
<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供	<input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出	<input type="checkbox"/> 携帯電話通話料個人負担	
<input type="checkbox"/> その他(提供可能な事項)：			
■備考・留意点			
当国での安全な滞在のために、エルサルバドル事務所から必要な安全情報（治安、災害、健康管理）提供などの支援を行います。 ・滞在費（一日あたりの食費及び少額交通費）目安：3200円/日 ・宿泊費目安：5400円/泊			

2018年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

受入担当部署/受入事務所		登録番号	1801—在13
■部署名/事務所名：	ペルー事務所	■募集人数 (人)	1
■課名/プロジェクト名：	事業広報		
■テーマ			
JICAペルー事務所での広報手法の改善、事業効果に関する広報資料の作成（日系社会支援・連携に係る広報も含む）			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
<p>JICAはペルーにおいて、過去60年近くに亘り、研修事業にはじまり技術協力、無償資金協力、有償資金協力、ボランティア等のほか、日系社会支援など、各種スキームと多岐に亘る分野での支援を行っています。他方、JICA事業に関する広報については、ターゲットの設定、適切なメディアの選定（HP、プレスリリース、Facebook等）、メディアに応じた内容の工夫など、今後の改善の余地があります。また、過去のJICA事業（日系社会支援・連携を含む）に関する定性的、定量的なインパクトを含めて成果をまとめた資料がなく、2018年はODA60周年、2019年は移民120周年とJICA協力の発信の強化が重要であり、ペルー向け、日本向けに事業の成果をまとめた広報資料の作成が急務となっています。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>1. JICAペルー事務所における広報活動の現状と課題をレビューした上で、広報の改善に向けた提案を行い、可能な範囲で実行していただきます。具体的には、インターンが作成に取り組んだ当事務所の広報マニュアルの内容を確認した上で報道機関へのプレスリリースの作成・配布に関する実践強化や、SNS、HPでの発信強化、発信手法の改善、広報実績取りまとめ方法の改善等広報実践強化に関する取り組み、マニュアル内容の追記・改善支援を期待します。</p> <p>2. 過去のJICA事業に関する既存の情報（事後評価結果、ペルー事務所による受益者へのヒアリング、統計資料等）をもとに、対ペルー、対日本の両方の観点から、JICA事業の成果に関する広報資料を作成します。具体的には、事業（日系社会支援・連携を含む）に関する情報収集、取りまとめ、分析を行った上で、広報資料として取り上げる内容を検討し広報素材を作成します。現時点では広報素材としてパンフレットを想定していますが、他のメディアについてもインターンからの提案を歓迎します。これらも活用してのODA周年行事のイベント支援に取り組んでいただきます（2018年第3四半期を想定）。</p>			
■参考情報			
https://www.jica.go.jp/peru/index.html https://www.youtube.com/user/jicaperu/			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
必要に応じて広報イベント、各種行事への参加を検討します。			
■受入時期・期間			
2018年9月上旬 から 12月中旬 までの2ヶ月間程度			
理由：			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）		■希望する分野	
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入に必要な要件			
■提供可能な執務環境等（可能な項目にチェックを入れてください。）			
<input checked="" type="checkbox"/> 執務スペース	<input checked="" type="checkbox"/> 電話等の利用	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出し	<input type="checkbox"/> PC自身で準備
<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供	<input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出	<input type="checkbox"/> 携帯電話通話料個人負担	
<input type="checkbox"/> その他（提供可能な事項）： _____			
■備考・留意点			
・滞在費（一日あたりの食費及び少額交通費）目安：1500円/日 ・宿泊費目安：5000円/泊			

2018年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

受入担当部署/受入事務所		登録番号	1801-在14
■部署名/事務所名:	パラグアイ事務所	■募集人数 (人)	1
■課名/プロジェクト名:	事業班及びボランティア班		
■テーマ			
パラグアイ事務所のボランティア事業等広報強化に資する業務及びボランティア班業務補助			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルメディア（事務所FB）を通じた、ボランティア事業及び教師海外研修事業に関する情報発信。（FB記事の作成及びビデオ動画の作成。） ・アスンシオン滞在時の、ボランティア班における業務補助。 			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<ul style="list-style-type: none"> ・当国におけるボランティア事業を中心とした広報。本事務所では、特にソーシャルメディア（事務所FB）での発信強化を図っており、当国滞在中に訪問するボランティアの活動の状況やボランティアの思いなどを端的にまとめ、FB掲載用の記事を作成する。また、インターン自身が撮影した写真も記事と一緒に掲載する。なお、視察したボランティアの活動を3分以内でまとめたミニ広報動画を作成し、YouTubeに掲載する。（動画撮影対象は、視察したボランティアの内の一部で構わない。） ・8月はJICA四国支部所管の「教師海外研修」の受入れを予定している。この研修グループに同行し、ボランティア活動に関するFB記事作成と併せ、「教師海外研修」の様子もFBに掲載する。 ・その他、アスンシオン滞在中は、必要に応じ、ボランティア班の業務補助を行う。（10月に予定されている「ボランティア派遣40周年」記念事業実施準備他） 			
■参考情報			
<ul style="list-style-type: none"> ・過去の当事務所配属のインターンが事務所FBに掲載している下記記事やビデオ動画をご参考にして下さい。 https://www.facebook.com/jicaparaguay/posts/1247536092056926 https://www.facebook.com/jicaparaguay/posts/1276596302484238 https://www.youtube.com/watch?v=76eelzjHIR4&feature=youtu.be https://www.youtube.com/watch?v=BDb_9JCWagE https://www.youtube.com/watch?v=6z8Wct97-u4 ・「教師海外研修」：国際理解教育・開発教育に熱心に取り組んでいる小学校・中学校・高校等の教師をJICA国内機関を通じて公募し、夏休みに開発途上国にてスタディツアーを行うもの。約8日間のパラグアイ滞在を通して、当国の生活事情や教育事情、日系社会、JICAの協力活動等への理解を深め、その経験を教材としてまとめ、帰国後の日本での次代を担う生徒の教育に役立てて頂くことを本事業の目的としている。 <p>【参考】 JICA四国 2017年度教師海外研修 パラグアイ研修（報告） https://www.jica.go.jp/shikoku/enterprise/kaihatsu/kaigaikenshu/report_2017_par.html</p>			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
四国支部管轄「教師海外研修」への同行：2018年8月9日～16日 その後は、アスンシオン及び地方に滞在するボランティアの活動現場視察、必要に応じ、一部業務補助を予定しています。（視察先のボランティアについては、ボランティア班で事前に決定します。）			
■受入時期・期間			
2018年8月3日（着任日） から 9月28日（離任日）までの 2ヶ月間程度			
<input type="radio"/> 調整可 <input checked="" type="radio"/> 調整不可 理由： 受入開始日については、調整不可。着任後に同行する教師海外研修の日程が確定しているため。受入終了日については、若干の調整可能。			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）		■希望する分野	
大学生			
■応募資格以外に受入れに必要な要件			
■提供可能な執務環境等（可能な項目にチェックを入れてください。）			
<input checked="" type="checkbox"/> 執務スペース	<input checked="" type="checkbox"/> 電話等の利用	<input type="checkbox"/> PC貸出し	<input checked="" type="checkbox"/> PC自身で準備
<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等	<input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出	<input type="checkbox"/> 携帯電話通話料個人負担	
<input type="checkbox"/> その他(提供可能な事項):			
■備考・留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・JICAボランティア事業に関心が高く、かつ事業広報に対する熱意が高い大学生の方の応募を希望します。 ・スペイン語の資格（DELE、西検等）までは求めませんが、例えば第2外国語専攻であったり、以前中南米地域に短期間でも滞在したことがある等、西語の知識をある程度有する方の人選を優先します。 ・「教師海外研修」の同行期間中は、参加される先生方と同一のホテルに宿泊していただきます。アスンシオンで滞在予定のホテル（1泊約32US\$）より割高なホテルに宿泊いただく可能性もあります。 ・8月、9月とも、滞在費補助額である月額6万円を超える支出となる可能性もあります。（アスンシオンでの宿泊代、2か月分の食費、アスンシオン市内移動にかかるバス代（宿泊先のホテルから事務所までは徒歩で可能です。）、地方出張時の往復のバス代などが主な支出予定項目です。） 			

2018年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

受入担当部署/受入事務所		登録番号	1801—在15
■部署名/事務所名：	ウガンダ事務所	■募集人数 (人)	1
■課名/プロジェクト名：	ボランティア事業の成果に係る調査及び広報活動		
■テーマ			
ボランティア事業支援（ボランティア派遣のインパクト評価実施に向けた情報の収集と分析）及び広報活動支援			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
<p>ウガンダ国では2001年よりJICAボランティアの派遣が開始され、すでに700名以上のボランティアが活動を行ってきました。配属先によっては、すでに3～5人程度のボランティアを受け入れており、活動の成果が蓄積されてきています。現地のニーズに合った質の高いボランティア派遣を行い、これまで以上にウガンダ国の開発課題の解決へ貢献するために、これまでのボランティア派遣のインパクトに関する評価を実施していくことを計画しています。インターンには、このインパクト評価の基礎となる過去のボランティアが作成した資料・報告書などを整理・分類する作業や、今後の情報収集につながるデータベースの整備を行っていただきます。また、ボランティア事業を含むJICA事業の成果を日本及びウガンダの国民に広く伝え、国民の理解や活動への協力者の層を拡大することを目指し、広報業務の支援も期待されています。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<ol style="list-style-type: none"> 1. これまで派遣されたボランティアの作成した資料・報告書を整理・分類、成果の収集。 2. 上記1. で整理された情報をもとに実施する、配属先への電話での聞き取りや訪問を通じた活動成果に関する現状調査（報告書作成） 3. 各ボランティアの成果を蓄積するためのデータベースの整備と入力作業 4. ボランティア事業を含むウガンダ国で実施されているJICA事業の情報の情報発信（事務所公式HP・Facebook等） 5. その他、事務所が行う業務の補助 <p>上記の内容を主の活動とするが、インターンシップ時の状況とインターン本人の希望と能力に応じて、活動内容を変更する。</p>			
■参考情報			
JICAボランティア公式HP (https://www.jica.go.jp/volunteer/)			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
ボランティア派遣先訪問、各種会議、セミナー、イベントへの参加			
■受入時期・期間			
2018年8月 から9月 までの1ヶ月間程度			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可 理由：			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）		■希望する分野	
大学生・大学院生とも可			
■応募資格以外に受入に必要な要件			
<ol style="list-style-type: none"> 1. PC・PC基本ソフト（Windows Office等）の基礎的な操作 2. 活動を実施が可能なレベルの英語（目安：TOEIC®640点以上、TOEIC® S&W 260点以上、TOEFL®500点（CBT173点、iBT61点）以上、GTEC 560点以上、IELTS 5.0以上）（現地の言語の知識があることが望ましいが必須ではありません） 3. 将来的に国際協力の現場に貢献する意欲 			
■提供可能な執務環境等（可能な項目にチェックを入れてください。）			
<input checked="" type="checkbox"/> 執務スペース	<input checked="" type="checkbox"/> 電話等の利用	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出し	<input type="checkbox"/> PC自身で準備
<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等	<input type="checkbox"/> 携帯電話貸出	<input type="checkbox"/> 携帯電話通話料個人負担	
<input type="checkbox"/> その他(提供可能な事項): _____			
■備考・留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 入国に必要なビザは、入国前に申請し、取得する必要があります。 ・ 渡航前に黄熱病の予防接種を受ける必要があります。 ・ 滞在費（一日あたりの食費及び少額交通費）目安： 2,000円/日 ・ 宿泊費目安： 3,000円/泊 			

2018年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

受入担当部署/受入事務所		登録番号	1801-在16
■部署名/事務所名：	ニカラグア事務所	■募集人数 (人)	1名
■課名/プロジェクト名：	ニカラグア国・チョンタレス保健管区とセラヤセントラル保健管区における母と子どもの健康プロジェクト		
■テーマ			
エンドライン調査の整理、国際フォーラム運営支援			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
<p>ニカラグア政府は、PHCに基づき、病気の予防、健康増進、診療・診断を包括的に実施する「家族地域保健モデル（MOSAFIC）」を保健戦略として導入した。医師・看護師・准看護師で構成される医療チームと保健ボランティアなどで構成されるコミュニティネットワークを第一次保健レベルで主力を担う家庭地域保健チーム（ESAFIC）として、全国でMOSAFICを展開している。医療チームは、数的充足の努力が続けられているものの、医療サービスの質の向上、遠隔地住民の医療サービスへのアクセス改善などが、喫緊の課題となっている。また、出産前後の女性が医療施設に近い場所で過ごすためのマタニティホームの普及はニカラグアの特徴であるが、中には、利用度が上がらないホームがある。このような状況のもと、国際的に重要視されている妊産婦と2歳未満児の健康リスクの低減を目指し、第一次レベルの保健施設における母子保健サービス提供能力の強化、地域住民による母子保健活動の主体的な実践の促進、母子保健サービスに関する行政機能強化を3つの柱とした技術協力プロジェクトを開始した。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>プロジェクト活動は、プロジェクトが実施した母子保健研修に関係する医療サービスやESAFIC活動の巡回指導を実施している。巡回指導は、保健管区事務所員とともに保健センターや保健ポストに赴き、医療従事者や行政官らの業務状況をモニタリングし、必要に応じて指導している。</p> <p>上述の通常業務に加え、プロジェクト終了に伴うエンドライン調査の結果を整理分析している。</p> <p>また、8月22～24日に開催する家庭地域保健国際フォーラムの準備に取り掛かっている。</p> <p>プロジェクトとしては、特にエンドライン調査、国際フォーラムの業務支援にインターンシップを募集する。</p>			
■参考情報			
プロジェクトホームページ： https://www.jica.go.jp/project/nicaragua/008/index.html			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
県や市レベルで開催される保健技術審議会、プロジェクト運営委員会、国際フォーラムなど			
■受入時期・期間			
2018 年 8月 から 8月 までの 1ヶ月間程度			
<input type="radio"/> 調整可 <input checked="" type="radio"/> 調整不可 理由：国際フォーラムが8月下旬に開催されるため。			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）		■希望する分野	
大学生・大学院生・社会人全て可		特になし	
■応募資格以外に受入に必要な要件			
スペイン語検定4級あるいはそれと同等以上のスペイン語力を求む			
■提供可能な執務環境等（可能な項目にチェックを入れてください。）			
<input checked="" type="checkbox"/> 執務スペース	<input checked="" type="checkbox"/> 電話等の利用	<input type="checkbox"/> PC貸出し	<input checked="" type="checkbox"/> PC自身で準備
<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等	<input type="checkbox"/> 携帯電話貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話通話料個人負担	
<input type="checkbox"/> その他(提供可能な事項):			
■備考・留意点			
異動などに時間が要するため、業務終了が遅くなる場合がある。 ・滞在費（一日あたりの食費及び少額交通費）目安： 2000円/日 ・宿泊費目安： 6000円/泊			